

## 佐毘売山神社

佐毘売山神社は、石見銀山の中心的観光スポットのひとつである龍源寺間歩の入口から 200 メートルほどの丘にひっそりと建っています。しかし、16 世紀後半から 17 世紀初頭に銀山が栄えた頃には、この祈りの場所は神社周辺の山腹全体に広がる大規模な鉱山集落にとって、精神的および物理的な中心地でした。この聖地では鉱山の守り神である金山彦命が祀られており、かつてはこの地域でも有数の豊富な銀鉱脈を誇った場所の真上に建てられています。この神社で毎日祈りを捧げた坑夫とその家族は、人工的に平坦かつ段々状にされた近くの区画に建てられた家に住んでいました。現在、それらの住居は残っていませんが、住居建設に適した傾斜地を作るために組まれた石垣の多くは、今でもこの近くで見られます。佐毘売山神社は、石見銀山の歴史を通じて重要な宗教的施設であり続けました。現在残っている建物は 1819 年までさかのぼり、その中には非常に大きな拝殿もあります。建物がこの大きさであるのは、元々神道の神々に捧げられた宗教的舞踏の一種である神楽の上演に使われていたためです。これは石見地域の重要な民俗伝統として残っています。